

## (実践報告) 抄録用紙

|                    |                                    |
|--------------------|------------------------------------|
| 演題名<br>(全角 80 字以内) | 有床診療所開設における実践報告                    |
| 演者名                | 細田 修 1) 小野宏志 2) 鳥羽昭三 2) 西澤由佳 2)    |
| 所属                 | 坂の上在宅医療支援医院 1)<br>坂の上ファミリークリニック 2) |

### 目的

有床診療所の開設に伴い入院患者の実態を明らかにする。特にどのような患者が入院しているのかについて臨床像からの類型化を行い、類型ごとに行われている治療や転帰を明らかにした。ショートステイが利用できない医療依存の高い患者のレスパイト入院、病院への入院までが必要と思われる治療やホスピスケアの患者を受け入れたこと、在宅復帰への支援を行ったことを報告する

### 実践内容

平成 26 年 2 月開設から 26 年 8 月までの有床診療所の退院した患者全例を対象として入院時に取得した情報と診療記録を分析した。患者の背景として原疾患（悪性腫瘍、認知症、慢性期循環器疾患、慢性期呼吸器疾患、中枢神経疾患、その他）、転帰（死亡、在宅復帰、病院へ転院、その他）を診療記録から抽出した。次に入院時、入院後の経過から患者を「患者の状態は医学的治療を必要としないが医療依存が高く介護施設での受け入れができない等の入院」「医学的治療を必要とする入院」「看取りのための入院」「在宅復帰支援」とに分けた。分類は医師 1 名と調査を行った看護師 1 名の合意に基づいて行った。分類に応じて患者の受けた治療を診療記録から抽出した。治療は、酸素、気道吸引、維持輸液、高カロリー輸液、抗生物質の非経口投与、オピオイドの投与、抗精神薬・抗不安薬に分類した。入院期間中に 1 回でも行われた場合に行われたとした。

### 実践効果

135 名の入院があった。悪性腫瘍の患者 33 名、認知症 30 名、慢性期循環器疾患 27 名、慢性期呼吸器疾患 13 名、中枢神経疾患 30 名、その他 1 名であった。

「患者の状態は医学的治療を必要としないが医療依存が高く介護施設での受け入れができない等の入院」20 名、「医学的治療を必要とする入院」105 名、「看取りのための入院」5 名、「在宅復帰支援」5 名であった。

### 考察

疾患に隔たりないことと医療を必要とする人が多いことが結果から得られた。このような活動が在宅療養のサポートにつながることを今後も必要と考える